

2019年度上期 決算説明会 質疑応答要旨

お断り：この要旨は決算説明会での質疑をご参考として掲載するものであり、一部補足を含め簡潔にまとめさせていただきました。ご了承ください。

記

1. 開催日 : 2019年11月13日(水)

2. 場所 : 本社会議室

3. 社長挨拶 :

先般、東日本各地を襲いました台風によりまして、お亡くなりになられました方々のご冥福をお祈り致しますとともに、ご遺族の皆様、そして被災され今も厳しい日々を送っておられる皆様に、謹んでお見舞いを申し上げます。被災地の一日も早い復旧を心より祈るばかりでございます。

当社の日々果たす使命は、水処理、並びに廃棄物処理施設の建設、及び施設の運転維持管理などの業務を通して、社会や地域に貢献することでございます。

今回の台風により、当社が仕事をさせていただいている地域でも、洪水や土砂崩れなど、被害が発生しております。

住民の皆様が一日も早く、安全で安心な暮らしを取り戻すことができますよう、神鋼環境ソリューショングループ各社一丸となりまして、地域と連携し、施設の復旧に向けた工事や、災害廃棄物処理の支援などに全力で取り組んでいく所存でございます。

4. 質疑応答内容 :

<Q1>

資料P.10)

IHI環境エンジニアリング(IKE)との事業統合による19年度通期の売上高、利益への寄与度を教えて欲しい。

<A1>

売上高においては100億円程度である。

利益に関しては、要員の融合によるコストダウン等があり、詳細には算出していない。

<Q2>

資料P.13)

5月開催の2018年度決算説明会資料では、2019年度見通しの水処理施設関連事業の経常利益は7.9億円であったが、今回の資料では、△1.0億円と見直されている。この具体的な要因を教えて欲しい。

<A2>

主にコストアップにより、年度当初見通し数値と比べ利益が減少した。

一部の手戻り工事の発生、予期しない事態への対応等、当初の計画通り工事を進めることができない案件があり、予想外のコストが発生した。

<Q3>

5月開催の2018年度決算説明会では、IKEとの事業統合による国内廃棄物処理関連事業の2025年度目標が記載されていたが、変更はないのか？

<A3>

国内廃棄物処理関連事業の2025年度目標：売上高500億円、経常利益25億円に変更は無い。

<Q4>

資料P.36)

下水汚泥バイオマスの燃料化+発電事業の進捗状況と今後のスケジュールについて教えて欲しい。

<A4>

現在、汚泥燃料を実証施設にて製造している段階であり、神戸製鋼の石炭火力発電所での実証開始に向け調整中である。

<Q5>

資料P.37)

福井県大野市での木質バイオマス発電事業は2016年に営業運転を開始したが、新たな建設予定の案件はあるのか？

<A5>

現在、新たな建設予定の案件はないが、顧客からの引き合いは多くいただいている。

これまでは7万KW級の大規模施設の需要が多かったが、今後は当社がターゲットとしている小規模案件の計画が進んでいることもあり、引き合いが増えてきている。

<Q6>

資料P.38)

水素関連ビジネスへの取り組みについて、水電解式高純度水素発生装置(HHOG)事業の受注状況、下水由来バイオガス(消化ガス)からの水素製造に関する共同研究の方向性について教えて欲しい。

<A6>

HHOGの受注については、累計180台の受注実績を有しており、顧客からの引き合いも順調にいただいている。太陽光・風力発電からの電気により水素を製造するCO₂フリー水素製造の実証実験でも使用されており、最近ではフォークリフト用燃料電池向けへの採用も増えている。

消化ガスからの水素製造は、研究を開始したところであり、具体的には富士市での実証実験を開始している。

<Q7>

資料P.38)

HHOGについて今後の受注予想を教えて欲しい。

フォークリフト向けは引き続き好調が続くのか？

<A7>

今後の具体的な数値はご容赦いただきたいが、受注を拡大できるよう検討を進めていきたい。

フォークリフトだけではなく、用途を広げていきたいと考えており、各方面へ働きかけを実施している。

<Q8>

資料P.41)

RPAの取り組みについて、具体的に教えて欲しい。

<A8>

コスト積算部門、財務部門、人事部門等において、ある程度定型的で反復性の高いデータ処理等の業務への運用を開始している。

以 上

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社の現在把握している情報、及び合理的であると判断する前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。